

体験できる！自動車運転支援講座を開催して

運転と作業療法委員会 高知県協力者 矢野勇介

令和元年7月20日（土）に、「体験できる！自動車運転支援講座」が高知県運転免許センターにて開催されました。

昨年度から、高知県作業療法士会も共催として講座を運営するにあたり協力をさせていただいています。当講座の目的は、脳卒中などにより肢体が不自由になられた方や高次脳機能障害を有する方の運転についての理解を深めるため、私たち作業療法士やその他の支援者を対象とした実技体験講座を実施することにあります。具体的には、実際に適性検査受検時に実施されている動体認知検査体験や実車体験、頸髄損傷者の車両移乗時の実技見学・体験、運転補助装置や改造・福祉車両の展示・体験といった内容となっています。



改造車・福祉車両展示

当日は、作業療法士12名、理学療法士1名、支援員1名と14名の方にご参加いただきました。当日の講座では、参加者の皆さんを3グループに分け、動体認知検査・実車・移乗実技をそれぞれ体験していただきました。実車体験では、左足でアクセルとブレーキを操作できる車両や片手で前後にレバーをたおす装置（手動装置）で運転できる四肢麻痺用の車両など、実際に運転してみて初めて気づいたことや思っていたより操作が難しいなどの声も聞かれました。移乗実技見学・体験では、実際に当事者の方の車両で移乗動作を見学させていただきました。ドアを開ける時に使用する紐の工夫や移乗時の車いすキャスターの向き、車いすを車両に片手で引き上げる際の手の位置など、参考書や教科書では学べないより具体的なアドバイスを聞くことができました。また、当日は改造業者の方も来られており、改造車や福祉車両の展示や体験など、活発な質問や相談も聞かれました。

今回の講座に参加して、「今後のリハビリ内容への更なる工夫ができる」「実際に体験してみて必要な能力が分かった」「机上検査だけで判断せず実車訓練の必要性が分かった」「対象者に応じた福祉車両の選定やアプローチの選択肢が増えた」など、参加者の方々から今後の運転支援に活かしていける感想をたくさんいただきました。

私たち作業療法士が受け持つ領域は対象となる方に必要な生活行為を保証することだと思います。自動車運転も、その方の活動や社会参加をサポートするために必要な行為と捉えています。対象者とそのご家族が運転の可否について納得できることが、適切な社会参加の手段の確立には欠かせないと考えています。今回の講座が、よりよい社会参加をするための「自動車運転」に対する支援に繋がることを期待したいと思います。



移乗動作体験



実車体験



福祉車両体験